

ふるさと 通信員だより

vol.196

このコーナーでは、ふるさと通信員が取材した身近な地域の話を紹介しします。なお、町では通信員を募集しています(活動はボランティアでお願いしています)。広報活動に興味のある人は、役場広報広聴課広報係(内線216)にご連絡ください。



今年度末で閉校となる南中音更小学校(水口一校長児童8人)の児童が、今年もハロウィンに合わせてジャンボカボチャに絵を描きました。
カボチャは、児童が5月下旬に種をまき、草取りなどの手入れをして育て、ジャンボカボチャを32個、ラタン用のカボチャを26個収穫しました。
水彩絵の具を使い、思い思いに絵を描きます。真柄胡幸さん(6年)は、骸骨とお化けを丁寧なタッチで集中して描き、「きれいにできてよかった」と話してくれました。お化けとあめをユニークに描いた松井翔暉くん(3年)は、「まあまあのでき」とニコニコ嬉しそうでした。完成したカボチャは校門周りに飾り、道行く人の楽しみとなりました。

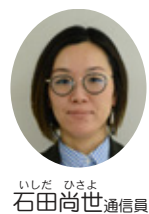


たかだ てつこ 通信員
高田徹子

こわくしい絵 描いたよ



きの・すずらん合同育児講習会「小児救急」が、未就学児の保護者を対象に、木野南保育園・きの子育て支援センター(園部聡子園長)で開かれ、8人がお子さんと一緒に参加しました。町消防署救急係の藤村和巳さんと、町消防団すずらん分団の杉浦里恵さんを講師に迎え、緊急事態の設定で参加者が演者となり、実践練習を行いました。
その中で、実際にAED(自動体外式除細動器)を使ったり、心肺蘇生の力加減などを体験的に学んできました。参加者の一人、矢野由貴さん(32)は「2人目が生まれたこともあり、参加してよかった」と講習会の感想を話してくれました。



いしだ ひさよ 通信員
石田尚世

育児講習会 「小児救急」開催